

加瀬みきの ワシントン発 グローバル随想

アメリカの中の オランダ



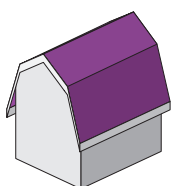
イラスト・題字：長峯亜里

アメリカの広大な領土には、自由と富を求めて渡ってきた様々なヨーロッパの国々の歴史や文化が色濃く残っている。英国での迫害から逃れてきた清教徒だけがつくった国では決してない。中でも小さな国であるにもかかわらず、アメリカの在り方に多大な影響を与えたオランダとの縁を紹介する。

アメリカの日常の中のオランダ

シカゴから中西部を回ると小さな町でも驚くほどホテルの食事が充実しているのに驚かされる。朝食だけでもワシントンやニューヨークでお目にかかる、ちょっと脂っばいグリルド・ベーコンやスクランブルド・エッグではなく、何種類ものハムやポイルド・ソーセージ、パンケーキやワッフル、コールスローやサラダがメニューに並んでいる。ドイツ系やオランダ系のアメリカ人が多いからだ。

パンケーキのオランダ語である pannekoeken を冠する店では「有名なオランダのパンケーキ」



キャンブルル屋根

を出す。このオランダ版パンケーキは、いわゆるパンケーキより薄く、クレープより厚い。アイオワ州などでは水車やギャンブレル屋根の建物も見られる。

英語は様々な言語をルーツにもち、中でもフランス語の影響が強い。Vision など ion で終わる単語をはじめ、フランス語語源の言葉は英単語の半分近くとまで言われる。しかし、オランダ語も健闘している。クッキーはオランダ語の koekje が語源である。食べ物以外でも wagon (ワゴン)、bundle (束)、dike (堤防)、booze (酒)、rucksack (リュックサック) はオランダ語が語源、サンタクロースは聖ニコラスのオランダ語 Sint Klaes の訛り^{なま}とされる。

宗教の自由はアメリカを代表する価値観となっているが、実はこれもオランダの歴史や社会の強い影響を受けている。オランダは16世紀にスペイン領ネーデルラント7州の新教徒たちが宗教の自由を求め、旧教スペインと戦い建国したネーデルラント連邦共和国が前身である。学者や起業家、宗教的迫害を受けた人々が移住していた。ここから政教分離の強い想いも生まれた。このオランダ人たちが英国人と同じ頃にアメリカに渡っていた。

英国人と同時期からアメリカ開拓

メイフラワー号でピルグリムたちがアメリカ北東部に渡ったのが1620年。そもそも英国での宗教上の迫害から逃れるためにオランダの